



松亭金水著
葛飾北齋畫

日蓮上人一代圖會全

繪人文庫刊行會發行

大正十五年十月一日印刷
大正十五年十月五日發行

繪入文庫

第七卷

坪内逍遙鑑選

編輯者

東京市麴町區山元町三丁目四番地

廣谷雄太郎

印刷者

東京市小石川區久堅町一〇八番地

君島潔

印刷所

東京市小石川區久堅町一〇八番地

共同印刷株式會社

發行所

電話四谷七一七七番
振替東京二七八五一番

東京市麴町區山元町三丁目廣谷刊行會內

繪入文庫刊行會

日蓮上人一代圖會叙

叙曰、昔朝公述鼻祖一代之大綱、名之曰化導記。爾來諸師著作、桃李矜艷、蘭菊爭芳、各雖盡善、非無小異。獨至如六牙潮師之別頭統紀、可謂集而大成矣。雖然文章廣博、句句聯玉、意味深長、爲不易解、童蒙之徒、何以得探其願哉。于茲清信之高士、深憂此事、寓目囊箱、終集薩埵一代之事業、撰爲六卷、大憑潮公之統紀、取槃和文、傍填國字、往往舉諸傳之異說、間又加以圖繪、逆機之兒輩、見之豈不結勝緣哉。若有我慢之輩、雖起輕毀之言、謗罪猶勝敬權佛、本化薩埵、利物化他、唯要使本末有善之族終歸實善。惟塔中別命之徒、真俗殊體、互現娑婆、廣開妙扇、普靡玄風、所作佛事、未曾暫廢、冥顯六或、和光同塵、底下

凡慮、何以可測哉。憶以高士、謂六百恒沙之眷屬、亦不可乎。文字卽解脫、無離文字、說解脫、然則無此書者、無由見法祖一代之成功。祖者是色讀法花之理體也、欲見法花之理體、宜於此書尋求焉。嗚噫偉哉文字之德、方如其現紙面、應于世務、成功而退、猶孫吳之應變用奇正。不有文字、何知奧妙之佛心。不有著作、爭知古今之事蹟。於茲傳記著述之功德、猶勝讚恒沙之佛陀者。聊傾微管題其首。

昔安政戊午仲秋

房州小湊誕生寺

現住 日

琢

日蓮上人一代圖會總目錄

卷之一

- 第一 上人家系誕生及び清澄寺に入りて修學の事
第二 高祖虚空藏の示現により鎌倉光明寺に入り給ふ事
第三 高祖比叡山及び南都七大寺游學の事
第四 高祖天王寺に入り又伊勢の宗廟に詣で給ふ事
第五 川越にて父の舊友を訪ひ故郷安房へ歸り給ふ事
第六 高祖鎌倉に到り比企能本を示す事

卷之二

- 第七 肇めて妙法を唱へ給ふ且日蓮と更め給ふ事
第八 他宗の非を擧げてこれを破る工藤以下檀越となる事

第九 鎌倉天變地妖并高祖岩本實相寺に入り給ふ事

第十 立正安國論を呈す并高祖面前時頼を諫め給ふ事

第十一 賊徒松葉谷夜討并高祖富木常忍が第に到り給ふ事

第十二 大祝兼益神道傳授并高祖伊東へ貶謫の事

第十三 朝高妙法に歸す并高祖日輪中の二菩薩開眼の事

卷之三

第十四 伊東貶謫赦免并老母の死を復し給ふ事

第十五 小松原の御難并南條へ與へ給ふ御書の事

第十六 天災地妖并高祖の母堂卒去の事

第十七 高祖鎌倉に歸り給ふ并蒙古書簡を贈る事

第十八 高祖十一箇所へ書を贈り給ふ并諸家騷擾の事

第十九 高祖甲州に杖を曳き給ふ并勸持品偈の事

第二十 靈山りやうせんが崎さき請雨きんう井い行敏官ぎやうびんくわんに訴うつた事こと

第廿一 高祖かうそ廳所ちやうじょに出いで給たまふ井い行敏ぎやうびんが訴うつたへしよへんたふ返答へんたふの事こと

卷之四

第廿二 高祖かうそ擒とらはれに就つき給たまふ井い龍りゆうの口御難尋くちごなんずんで赦免しやめんの事こと

第廿三 高祖かうそ佐渡さどに謫てきせらる角田かくたの巖題目いはたいもく井い嚴島女曼茶羅げんたうにまんたらの事こと

第廿四 佐州塚さしうづか原問答はらもんたふ井い重連しゆづらに亂らんを告つげ給たまふ事こと

第廿五 高祖かうそ佐州さしうに在ありて所しよくへ名判みやうはんを遣つかはさる事こと

第廿六 蒙古賊襲來もうこぞくしやらいの大略井たいりやく日朗にちらう赦牒しやてふを持ち佐渡さどへわたる事こと

第廿七 高祖かうそ歸路きろの教化けうけ井い若狹わかしの局つはねが靈れいを鎮しづめ給たまふ事こと

卷之五

第廿八 時宗ときむね宗牒しゆてふを高祖かうそに賜たまふ井い高祖身延かうそみののぶへ入いり給たまふ事こと

第廿九 善智ぜんちと法力ほよりきを角くぶる井い鶺鴒うかひ飼かひを得度とくどの事こと

第三十

高祖所々遊化し給ふ井孝道全き事

第三十一

經一麻呂日朗に従ふ井身延山の記の事

第三十二

富木氏母の喪を修む井清澄道善法印遷化の事

第三十三

龍象房邪說井身延七面明神化現の事

第三十四

阿佛房三たび身延を訊ふ井大黒天の像を常忍に與へ給ふ事

第三十五

蒙古襲來の沙汰井身延に堂宇を建る事

卷之六

第三十六

三大祕書を太田氏に賜ふ井異賊襲來の事

第三十七

蒙古襲來一始終の大略

第三十八

雲佛の眞影井諸書異説の事

第三十九

日法彫刻を善す井常忍家族疫疾の事

第四十

高祖池上に赴き給ふ井本門寺開堂供養の事

第四十一 高祖病篤し井諸子へ遺誡の事かうを やまひあつ しよし へんかい こと

第四十二 高祖入滅井茶毘葬儀の事かうを によめつ なび さいぎ こと

第四十三 法子法孫の智識列位の事ほふし ほふそん ちしき ぎれつる こと

第四十四 日蓮大菩薩號井身延住持紫衣參内の事にちれんたいは さいがう み のみちのうちし え さんない こと

通計 六卷四十四條



貫名次郎
重忠







嚴島
女之
像



三
十
番
神
之
其
内
法
華
經
守
護
神
祇
園
大
明
神



